****

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・同分母分数のたし算，ひき算の仕方を理解し，計算できる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・分母が異なる等しい分数のつくり方や，異分母分数の大小を通分により比較する学習をしている。

教材研究ノート№5-A-5

≪学習問題≫

ジュースが，アの入れ物に　　L，イの入れ物に

　　L入っています。あわせると何Lですか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

1

2

1

3

②見通し：分母がそろっていないからたせない。

→分母を同じ数にそろえればたせそうだ。

②学習課題：分母や図の目盛りをそろえて式や図に表し，

　　＋　　の計算の仕方を説明しよう。

1

2

1

3

③個人追究：式や図を使って追究し，説明を考える。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの求め方にも共通していることは何だろう？」

→「分母も目盛りも，2と3の公倍数の6にそろえている。」

「同じ分母の分数のたし算のときも，　　のいくつ分で考えたから，今回も　　の5つ分と考えている。」

1

○

1

6

④共同追究後半（思考を深める）

「どうして分母どうし，分子どうしをたしてはいけないのかな？」

→「単位分数のいくつ分どうしのたし算で考えなくてはいけないから，分母どうし，分子どうしはたせない。」

　「　 ＋　　は　　 で，　 より小さくなりおかしい。」

2

5

1

2

1

3

1

2

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・分母が異なる分数は，通分して分母をそろえれば，同じ分母の分数のたし算と同じように計算できる。

・分母をそろえることは，図で目盛りをそろえることと同じだ。

⑥定着･活用問題

次の分数のたし算を入れ物の

図を使って説明しなさい。

　　＋

1L

1L

1

2

3

4

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・単元の導入から，分数の数直線や絵図を意識的に使ってくると，追究方法の見通しがもちやすい。

・絵図での追究において，目盛りのそろえ方で戸惑う児童には，一方の目盛りを他方に付けることにより，目盛りの幅が1/6になることに気づかせたい。

【板書計画】